

企業名：五洋建設

レポート名：コーポレートレポート 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる。

特に、地球温暖化が加速する現代において、五洋建設がどのような取り組みをしなければいけないのか、また持続可能な成長をどのように達成するのかについて、コーポレートレポート全体で詳しく説明している。地球温暖化に対する五洋建設の現在の取り組みを紹介し、そして将来に向けてどう展開していくについてのビジョンを具体的に示している。

また、20 ページには労働者の安全の徹底、22 ページにはコーポレート・ガバナンスの取り組みの詳細を説明している。他にも働き方改革や女性活躍推進、IT の活用といった現在の重要な潮流に対してどう対応しているかについても言及している。

全体としては環境への取り組み・計画の説明が大半であるが、冒頭の 2 ページで示された 4 つの基本方針である、誠実な企業活動、環境・自然との共生、人間尊重、社会とのコミュニケーション、を達成することで、株主・顧客・取引先・従業員・地域社会にとって魅力的な企業を目指していることはとても伝わるし、わかりやすいと言える。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

理解しづらい。

このコーポレートレポートは、地球温暖化をはじめとする絶え間なく変化する社会情勢において持続的に成長できる会社になるためにはどうしたらいいのかについての説明がほとんどであり、今現在五洋建設が持っている競争優位性についての説明が少ない。

例えば、21 ページには五洋建設の技術力に対する外部表彰について紹介されており、これは五洋建設の技術面における競争優位性を示すものだろう。

しかし、8 ページに財務情報についてのグラフが示されているが、それについての分析は書かれておらず、今後の目標が示されているだけである。

以上より、少なくとも 21 ページの表彰は競争優位性を示すものだが、これ以外に明確な競争優位性についての説明は見当たらず、現在の五洋建設の競争優位性は理解しづらいといえる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。

2 の項目でも述べたように、このコーポレートレポートは五洋建設の持続可能な発展について詳細かつ具体的に説明している。地球温暖化において今後の建設業に求められるあ

り方について分析し、それを可能にする技術力の成長をどう達成していくのかを、短期・中期・長期に分けてそれぞれ具体的な目標を立てている。

また、目標を表や図にして整理するといった見やすさへの工夫も感じられた。特に10ページの2050年カーボンニュートラル実現に向けたロードマップは非常にわかりやすかった。

以上より、五洋建設の競争優位性の持続性はとてもわかりやすく、理解できるといえる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると思う。

コーポレートレポートには、五洋建設の社員教育について説明されている。20ページのベテラン社員による受講生のニーズに合わせたオーダーメイド教育や、初めての工種については実際に現場を見せることで受講生が理解しやすくする工夫がされている。

また、仕事以外にも、16ページ的环境教育、20ページの安全教育、24ページのコンプライアンス研修など、幅広く社員教育に力を入れている。

以上より、五洋建設は社員教育が徹底しているため、人的資本の価値向上を達成できらうと感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

まず、このコーポレートレポートの良かったところは、見やすさの工夫がされていることだ。3の項目でも述べたが、図・表で整理しており、また、写真の使用や見やすいレイアウトなど様々な方法で、読み手の理解を助けていることが非常に好印象だった。

一方改善余地は2点ほどある。

1つ目は、8ページの財務諸表ハイライトだ。このページでは財務データがグラフで示されているが、それについての分析がないことが気になった。おそらく見やすさのために割愛したのだろうが、財務的によくない傾向を示しているデータもあるので、それについて全く言及しないのは、株主目線では印象が悪いのではないかと思った。

2つ目は、教育の年間予定表があるといいと思った。五洋建設では社員教育が手厚いことは伝わったのだが、仕事だけでなく環境、安全、コンプライアンスといった分野にわたっているため、日々の仕事をこなす中でこれらの教育が本当に達成できるのか疑問に思った。もっとも、機密情報であるため掲載できなかったのかもしれないと思うが、可能であればこれらの教育がどのようなスケジュールで行われているのかがわかれば、さらに印象がよくなるだろう。